

宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

第15号(2023年6月号 [2023/6/13 発行])

5月になり日中の気温が急に高くなってきました。みなさんこまめに水分をとり、熱中症にお気をつけてお過ごしください。さて、本号では薬剤部の小村が、病院薬剤師について善仁会病院での取り組みと共に紹介させていただきたいと思います。

病院薬剤師は病院内の薬剤部で仕事をしており、主に入院患者さんに対応しています。入院した際に病室に伺うと、病院の外の薬局の薬剤師と思われる方がいらっしゃいますが、病院の中にいます。外来の患者さんにはなじみが薄いかもかもしれませんが、生物学的製剤の点滴治療の患者さんは、旧市民の森病院で関わらせていただいた方もおり、ご存じの方もいらっしゃるかと思います。その患者さん方とも、病院合併後は中々お会いする機会が減ってしまいました。リウマチセンターニュース 2023年4月号で、私の記事がでたこともあり、話題にさせていただいた方が多くいらっしゃるということですのでうれしく思います。

■病院薬剤師の業務について

まずは基本的な業務からです。私たち病院薬剤師は、入院患者さんに対しての内服薬や注射薬の調剤や、お薬の説明が主な業務となっています。外来に関しては、院外処方となるため、どの病院でも基本的には外来患者さんに関わる機会は少ないと思います。ただ、当院では最近様々な取り組みを行っています。例えば、手術目的入院患者さんのお薬を確認する術前外来や、薬剤師による抗がん剤の無菌調製などがありま

す。最近では、新型コロナウイルス感染症のワクチン調製なども行っています。

4月号で記載された発表では、新病院になってからの薬剤部の取り組みについて発表させていただきました。

■新病院での薬剤部の取り組み

市民の森病院では、生物学的製剤の点滴治療は入院で行っていました。100名近くの患者さんが毎月1泊2日ないしは2泊3日で治療をして、薬剤部では主に退院処方渡す際に患者さんと関わっていました。しかし新病院では、治療が外来になり、患者さんに関わる機会が減ってしまいました。そこでその分の薬剤師の仕事量を、医師や看護師の負担軽減に回すことを検討しました。具体的には、注射薬の調製を看護師ではなく薬剤師が行うようにしました。現在、生物学的製剤の点滴製剤は、クリーンベンチと呼ばれるより清潔に注射を調製できる機器の中で調製しています。看護師は、注射薬の調製作業をする必要がなくなり、患者さんの対応に集中できるようになりました。



また、生物学的製剤や JAK 阻害剤を開始する際に、医師の説明とは別に、薬剤師から外来でもじっくりと話ができる機会を設けるようにしました。時間を設定しているわけではありませんが、1人あたり30分程度、診療の合間の時間で対応しています。内容としては、次に使う治療薬の説明や、今までの治療、関節リウマチそのものについてなど、通常の診療で聞きそびれていたことなどを、できるだけわかりやすく、詳しくお話するように心がけています。対応しているのは、日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師という専門の資格を持ち、リウマチ診療に精通した薬剤師です。もちろん医師ではないと分からない事などは、医師に確認する必要がありますが、お薬の事や関節リウマチの事については、ある程度詳しくお話することができます。お話を通して、関節リウマチ治療について再度正しい認識を持ってもらい、十分に理解・納得した上で、治療をしてもらう一助になればと考えています。また、医師にもある程度のお薬の説明は薬剤師に任せていただき、より多くの患者さんを診療していただければと思って活動しています。

■最後に

このように、なるべく治療の節目節目で、

多くの患者さんと関わる機会を増やしていきたいらと考えています。また、関節リウマチ診療チームの一員として、病院薬剤師も様々な事に取り組んでいるということを知っていただけたら幸いです。

(小村大輔)

薬剤部の取り組みまとめ

○点滴治療の薬剤混注を看護師から薬剤師へと移行

- ・清潔なクリーンベンチ内で行い、より安全に
- ・製剤特性を正確に理解したうえでの調製
- ・薬剤師が混注を行うことによって、**看護師は患者対応に専念**

○外来診療において、治療薬の説明に介入を開始した

- ・時間があれば以前担当していた患者へ必要に応じて関わる
※治療時に声掛けを行うと喜ばれます
- ・将来的にはすべての製剤に関して薬剤師が指導を行い、**医師の診察の負担を大幅に減らしてもらう**ことが理想

○入院患者対応だけでなく、外来でも薬剤師の可能性を

- ・外科系は、病院合併前より術前外来を実施し入院時の指導へとつなげている
- ・**薬剤に関わることに積極的に介入し**、よりよいチーム医療へ

今後のリウマチセンターニュースについて

今回は、薬剤部主任の小村大輔先生に薬剤師の業務についてお話し頂きました。今後も、時々、当院の医療スタッフから、それぞれの領域からのリウマチ・膠原病の患者さんにお役に立てる内容の記事を載せていきたいと思えます。また、掲載内容についてご希望がありましたら、当院の医療スタッフにご連絡いただければ幸いです。

(日高利彦)

リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。

なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

(https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1)